第２編

基本構想

第１章
基本構想の全体像

現　状

人口減少

産業衰退

財政規模の縮小

課　題

人口減少の抑制

産業の活性化

財源確保

町民ニーズ

10 年間の施策の大綱

流水文化 2011～枠を越えて知をつなぐ～

1．越知流保健・医療・福祉の充実

2．地域資源を活かした産業の振興

3．安心安全を守る社会基盤整備

4．絆でつむぐ教育・文化の振興

5．協働促進と自然環境の保全・活用

各年度の実施計画

（毎年、施策の大綱にのっとり計画・実施）

越知町の将来像

1．町民が子育てや老後に不安を感じない福祉充実の明るいまち

2．地域資源を活かした産業が根付き雇用の場が確保される活力あるまち

3．事故や災害から町民の安全を守る生活基盤の整備された安心のまち

4．地域の自然を教育や文化に活かした特色あるまち

5．人と自然、地域が絆でつながり共存共栄の未来をつくるまち

6．目標人口　６，０００人

第２章
越知町の将来像

本町の 10 年後の将来像を下記のとおり設定し、その実現を目指します。

【将来像】

１．町民が子育てや老後に不安を感じない福祉充実の明るいまち

子育て支援や医療支援、介護予防などが充実した保健福祉サービスを行い、安心して子育てができる環境を整備するとともに、老後の生活に不安を感じることのない環境整備を目指します。

２．地域資源を活かした産業が根付き雇用の場が確保される活力あるまち

本町内に存在する、人・物・自然・文化などの地域資源を活用した産業の振興を支援し、地元産業の活性化、雇用創出を行い、町民の暮らしの安定化と活力の創造を目指します。

３．事故や災害から町民の安全を守る生活基盤の整備された安心のまち

道路整備や上下水道の整備を行い、町民の安全を確保するとともに、災害時の救助体制を構築し、減災対策ならびに被災時の対応が速やかに行える環境の整備を目指します。

４．地域の自然を教育や文化に活かした特色あるまち

町内独特の自然を活かした教育と文化の振興を図り、「越知を愛し世界に羽ばたく、心豊かでたくましく創造性に満ちた子どもの育成」と「生涯にわたり、学ぶ目的や意義を自覚し、自ら学ぶ力を持った人間の育成」を理念とした教育を目指します。

５．人と自然、地域が絆でつながり共存共栄の未来をつくるまち

人と人、人と地域のつながりや協働をより強くし、自然の保全と活用を行い、人と自然、地域が共存共栄することができる仕組みを持った、持続的に発展するまちを目指します。

６．目標人口　６，０００人

本町の総人口は平成 32 年（2020 年）で 5,524 人となることが予測されていますが、大綱にのっとった実施計画を実行し、人口流出の抑制と移住促進による人口維持、子育てしやすいまちづくりによる出生数の増加を目指し、平成 32 年（2020 年）の目標人口を **6,000 人**と設定します。

第３章
まちづくりの理念

本町の 10 年後の将来像を実現するため、まちづくりの理念を下記のとおり設定します。

流水文化 2011

～枠を越えて知をつなぐ～

本町は平成 2 年から、越知町の生命の基である水への思いを文化の形とし明るく心豊かな町民・まちづくりを行っており、本計画でもその思いを受け継ぎます。
本計画ではさらに、これまで育まれ、守られ、つくられてきたさまざまな資源をつなぎ合わせ、より効果的な計画の策定を目指します。
本町の最も大きな強みは自然の豊かさと人の絆の強さです。これまで町内に存在する資源（歴史・自然・文化・教育・人・産業など）を育ててきました。

今後は、「越知らしさ」を強め、流水文化の充実を図り、新たな価値の創造をしていくために、これまで育ててきたさまざまな資源をつなぎ合わせ、活用することが必要です。
そのため、既存の仕組みや制度、世代、団体などの枠組みを越えて知恵と知識をつなぎ合わせ、ともに動くことが重要となります。

以上のことをふまえ、本計画のコンセプトを「流水文化 2011～枠を越えて知をつなぐ～」とし、計画を推進していきます。
また、下記の項目を基本的な考え方とし、取り組みを進めます。

【基本的な考え方】

- 本町の地域資源である、歴史・自然・文化・教育・人・産業などを把握し、その連携を強め町全体で再評価する
- 将来像実現のための方策を広い視点から練り上げる
- 地域外との情報交換を活発に行う
- 研究・開発機関と連携を取り、知識と技術の導入を進める
- 新たな価値を創造し、雇用の場の確保につなげる

第４章
施策の大綱

本町の将来像を実現するため、まちづくりの理念に基づき、以下の 5 つの項目を施策の大綱として掲げ、本町のまちづくりを推進します。

【施策の大綱】

１．越知流保健・医療・福祉の充実

２．地域資源を活かした産業の振興

３．安心安全を守る社会基盤整備

４．絆でつむぐ教育・文化の振興

５．協働促進と自然環境の保全・活用

第４章
施策の大綱

１．越知流保健・医療・福祉の充実

本町は、人口に対する医療機関の数は他地域に比べて多く、医療環境は整備され非常に充実しています。人口一人当たりのベッド数は日本一など、医療に関しては安心できる地域であると言えます。

本町は高齢化が全国平均水準を大きく上回っています。高齢者介護においても、介護する側も高齢者である状況も生まれています。出生数は減少傾向にあります。

これまで育んできた人の絆を活かし、声掛け運動や閉じこもり予防の範囲を高齢者対象から子育て中の方、障がいのある方にまで広げ、越知ならではのきめの細かい保健福祉を行います。また、医療機関との連携を促進し、病気予防や介護予防、小児医療など、全ての町民が安心して生活のできるまちづくりを進めます。

表１．地区別高齢者人口の推移

地区名	平成12		平成18		平成22	
	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)
越　知	1,397	27.7	1,523	32.0	1,620	35.7
野老山	140	45.9	140	52.6	135	53.8
南　国	76	63.3	70	67.3	70	73.7
大　桐	161	48.1	163	54.9	149	57.5
横　畠	330	37.7	337	41.6	327	44.5
明　治	271	41.8	276	49.1	263	50.7
東　北	120	37.2	107	36.0	97	37.0
合計/比率	2,495	32.6	2,616	36.8	2,661	39.9

地区別の高齢者比率は、越知地区・東北地区に比べ、その他の地域が高くなっています。中心地に比べて山間部は交通網も少なく、地区ごとの特徴に則したサービスの提供が求められます。

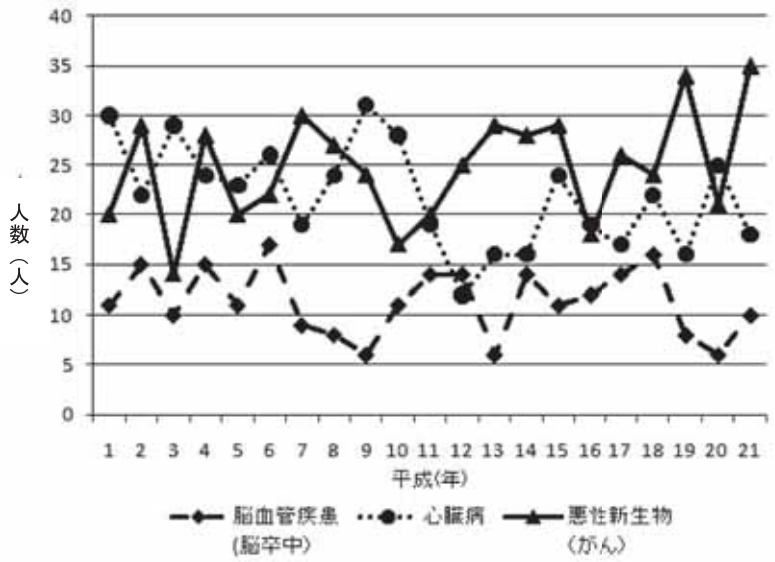


図 9.　主な死亡要因状況の推移

本町における主な死亡要因は、近年では悪性新生物（癌）が最も多く、次いで心臓病、脳血管疾患(脳卒中)となっています。悪性新生物は定期的に健診を受け、早期発見、早期治療を行うことにより、病状の進行を抑制、完治することが可能です。

職場などでの健康診断のみではなく、一人ひとりが自発的に健康診断を受けることが必要であり、健康診断を受けやすい環境の整備も必要です。

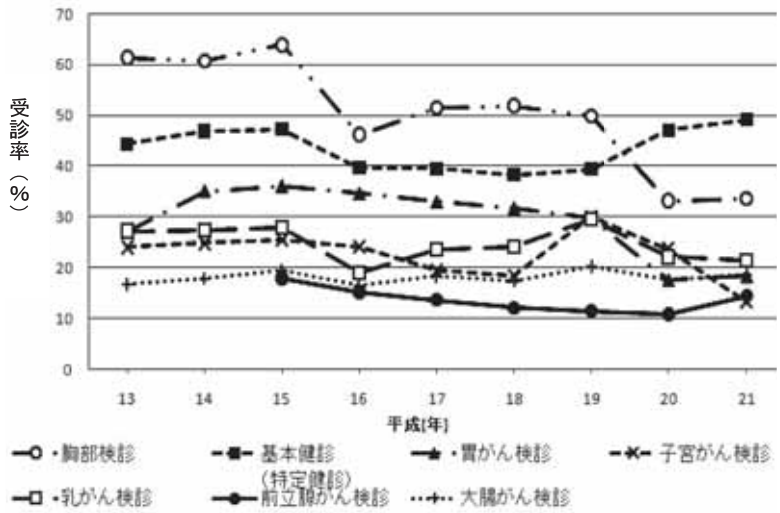


図 10.　各種健（検）診受診状況の推移

本町の基本健診の受診率は毎年 30%台後半～50%の間を推移しています。

しかし、その他の検診の受診率は、平成 20 年以降 35%以下であり、今後、受診を促す取り組みを進めていくことが必要です。

２．地域資源を活かした産業の振興

本町はこれまで農業を基幹産業としてきました。昔から栽培されている作物に加え、近年では薬草など新しい作物の栽培や、山椒などを加工して商品化も行われています。

また、横倉山や仁淀川、大樽の滝など、とても豊かな自然環境に恵まれており、仁淀川河畔でのコスモスまつりは 28 年間毎年続けて開催され「越知と言えばコスモス」が代名詞となっています。

今後、本町は、平成 22 年 4 月にオープンした「観光物産館 おち駅」を核として情報発信と収集を強化し、市場とのつながりをより現実的なものとしつつ、高知県の産業振興計画とともに町産業の振興に取り組みます。また、休校施設を活用した産業振興にも取り組みます。

第１次産業では生産者の高齢化や後継者不足の問題に対応するため、後継者対策支援や新規就農者支援、付加価値創造、地産外商に取り組みます。また、第１次産業と他産業の組み合わせによる生産モデルの検討に取り組みます。

第２次産業においては、これまで町内の多くの雇用創出に貢献してきました。今後も雇用の維持や新分野への進出支援、企業誘致などを進め、町産業の活性化を図ります。

また、第３次産業については、自然豊かな農村風景・河川・滝などを活かし、新たな観光の展開を図るとともに、町産品の地産地消と地産外商の促進に取り組みます。

第４章
施策の大綱

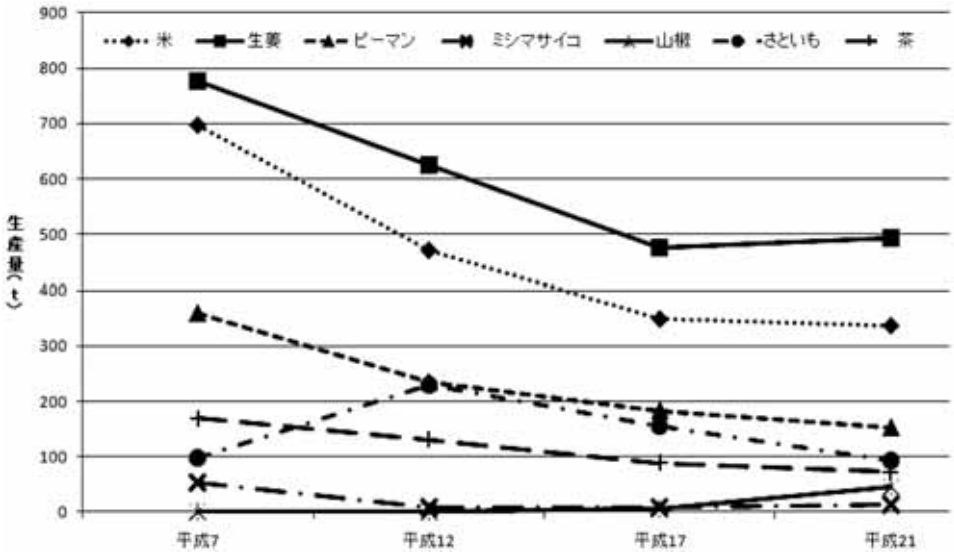


図 11.　主要作物の生産状況

主要作物の生産状況は、全体的に減少傾向にあります。

しかし、生姜や山椒、ミシマサイコなどは、その生産量が増加傾向にあり、新たな主要作物や名産品となることが期待されます。

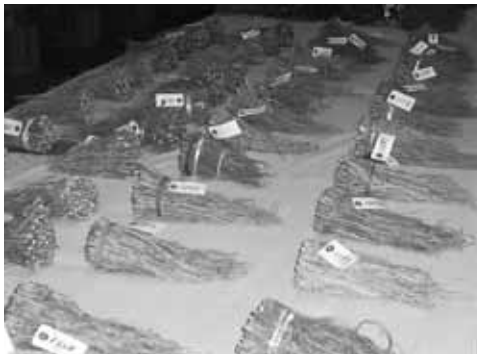


表 2.　森林整備の現状

		平成12	平成14	平成16	平成18	平成20	平成22
森林面積(人工林)(ha)		9,394	9,394	9,394	9,394	9,394	9,394
林業従事者(人)		25	27	30	23	21	15
原木価格	ヒノキ(円/㎥)	28,300	22,850	17,650	18,676	14,898	14,641
	スギ(円/㎥)	12,590	11,070	9,530	9,588	9,269	9,078
間伐実施面積(累計)(ha)		164	337	424	599	686	799

町内の森林面積は 10 年間変化がありませんが、林業従事者は 25 人から 15 人に減少しました。従事者減少の主な要因である高齢化や後継者不足といった問題の背景には年々低下する原木価格などがあります。

３．安心安全を守る社会基盤整備

本町はこれまで、行き止まり道の解消や水道整備などに取り組んできました。現在中心市街地では、行き止まり道はほぼ解消され、水道も整備されています。その維持管理には定期的な清掃や除草などの取り組みが必要です。一方で、山間部の集落においてはその地理的条件から、水道、道路などの整備が難しい場所が残っています。

整備が完了していない地区においては、生活基盤整備はもちろん、集落道整備や屋外手すり、防犯灯の設置など、高齢者をはじめ新規移住者も安心で安全な生活が送れるための支援を行います。

また、これまでヘリポート整備や自主防災組織の組織化支援を行ってきました。今後は、災害時に有効な情報基盤の整備を進めます。その際に必要な、災害時の住民ネットワークづくりなどソフト面での整備も進めます。

安心安全が確保された町には新規移住希望者も増加するため、空き家の活用や公営住宅の整備による新規移住者支援も進めます。

表 3.　道路整備状況

区分		路線数	総延長（m）	改良延長（m）	改良率（%）	舗装延長（m）	舗装率（%）
国道		1	9,643	9,643	100.0	9,643	100.0
県道		4	32,062	20,560	64.1	32,062	100.0
町道	計	273	214,599	92,829	43.3	188,266	87.7
	1級	7	18,520	9,910	53.5	18,520	100.0
	2級	13	34,609	19,205	55.5	34,180	98.8
	その他	253	161,470	63,714	39.5	135,566	84.0

（国道、県道については平成 21 年 4 月現在。町道については平成 22 年 4 月現在）

表 4.　給水の現状

種別	施設数	行政区域内人口	計画給水人口	給水施設能力（㎥／日）	給水人口	施設利用率（%）
上水道	1	4,457	6,000	5,600	4,457	100.0
簡易水道	7	1,133	2,665	494	940	83.0
飲料水供給施設	19	543	959	278	471	86.7
その他の給水施設	20	543	765	953	462	85.1
合　計	47	6,676	10,389	7,325	6,330	94.8

（平成 22 年 3 月現在）

４．絆でつむぐ教育・文化の振興

児童・生徒数の減少により休校が増加し、現在では小学校１校、中学校１校になりました。子ども達の教育環境の維持・向上を図るためには、教員数の確保、教員の指導力向上、学校施設の改善、保幼小中学校の連携、地域サポーターの活用などが必要です。教育環境を確保し、「越知を愛し世界に羽ばたく、心豊かでたくましく創造性に満ちた子どもの育成」を教育理念として、学力と体力の向上、生きる力の育成に努めます。

また、学校の減少とともに、学校を中心とした人と人との結びつきが薄れつつあり、学校に代わる新たな地域コミュニティの場所が必要です。公民館や休校施設を活用し、「生涯にわたり、学ぶ目的や意義を自覚し、自ら学ぶ力を持った人間の育成」を生涯学習の理念として子どもから大人まであらゆる年代の人が集える環境を整えます。

学校教育に加えて、地域学習としては、横倉山や仁淀川などの豊かな自然を活かし、環境教育や体験型学習を実施し、開かれた学校づくりに取り組んでいます。さらに、児童・生徒以外にも広く参加を促し、人と自然とのつながりや自然の大切さを学べる機会づくりを続けていきます。

国際交流の面では、今後の国際社会に対応できる人材の育成を目指して、これからも英語教育に力をいれていきます。

スポーツ振興の面では、本町が高知ファイティングドッグスのホームタウンとなったことで、町民が野球などのスポーツに親しむ機会や交流の機会が増えました。これからもスポーツを通じ、心身の健康増進を図ります。

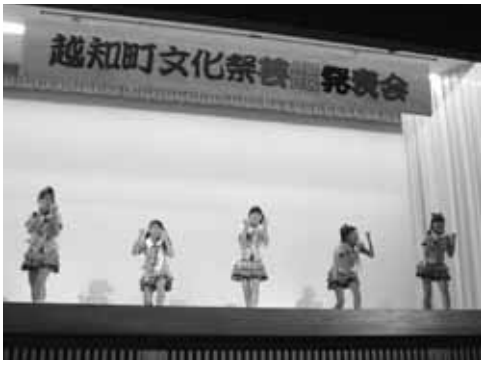
今後は、町民が、学校教育、社会教育、国際交流、スポーツの振興など、積極的に生涯学習活動に関わり、それらを総合的に取り入れた「絆でつむぐ教育・文化の振興」に取り組むことにより、「知・徳・体」のバランスのとれた人づくりを目指します。

表 5. 町内の生涯学習・スポーツ一覧

越知町文化推進協議会		おちスポーツクラブ
茶道	将棋	柔道
華道	囲碁	空手道
詩吟	陶芸	野球
民謡	史談会	サッカー
コーラス	大正琴	バレーボール
日舞	太鼓	スカッシュバレー
新舞踊	吹奏楽	テニス
剣詩舞	軽音楽	ゲートボール
社交ダンス	読書会	ソフトボール
3B体操	高知市民劇場を見る会	バドミントン
ヨーガ	絵画	ソフトバレー
俳句	パステル画	護身術
短歌	書道	スポーツ吹矢

表 6. 町内の季節行事

季節	行事名
春	茶摘み＆山菜採りツアー（横畠）
	虫送り（柴尾）
夏	あじさいまつり（日ノ浦）
	文殊大祭
	七夕まつり（桐見川）
	によどかあにばる
	キャンドルナイト（横畠）
	仁淀川で遊ぼう大会
秋	コスモスまつり
	いも煮会（横畠）
	文化祭
	産業祭
	おなばれ
	伝承行事（野老山）
	松山街道探検ウォーク（横畠）
冬	商店街イルミネーション
	新成人の集い
	新春囲碁・将棋大会
	ピッタリロードレース
	とんど祭
	凧揚げ大会



５．協働促進と自然環境の保全・活用

本町が社会状況に大きく左右されず、住みよいまちであるためには、行政と町民の協働が必要不可欠です。

町民と行政の協働をより一層推進すべく、町民にとって利用しやすく満足の高い行政サービスを目指し、インターネットによる情報発信をはじめ、開かれた行政システムの構築を行うとともに、地域の絆の強化を支援します。

一方、観光、産業、災害時に対する対応など、本町単独ではカバーしきれない部分もあり、他地域との連携を強化し、より良いサービス提供のための仕組みの構築に取り組みます。

現在、世界をはじめ、日本国内においても不安定な経済状況が続き、今後国からの補助に頼る町運営は難しくなっていくと予想されます。これまでも財政改善などに取り組み、一定の成果を残してきましたが、より一層の改善に取り組むとともに、その成果などを分かりやすく町民に発信する仕組みを構築し、町民が参加しやすい体制を整え、住民自治の推進や住民視点でのまちづくりなど、新しい公共の構築を推進していきます。

また、本町は自然による恩恵を受けており、その自然環境を保全することは重要です。かつては農業や林業が栄えていましたが、農家の高齢化、後継者不足などにより農家数が減少、外国産材の輸入増加などにより林業は縮小してきました。それに伴い、山間集落では耕作放棄地が目立つようになり、人が手を加えなくなってしまった山林は荒廃が進んでいます。一方で黒森山では「山は川の生みの親」を合言葉に官民協働での植樹事業が続けられています。

この豊かな自然を次の世代に受け継いでいくためにも、自然環境に配慮しつつ、山間集落の機能維持や活性化対策を行い、さらに自然環境の活用を行っていくことが必要です。

そのためにも、ゴミや不法投棄の管理・監視を徹底するとともに、町内で発生するゴミの減量化やリサイクル、自然エネルギーの導入など、自然環境に配慮したまちづくりを推進します。豊かな自然や既存の施設を活かし、川の活用などを促進し、人と自然が共生する豊かな環境で、誰もが気持ちよく暮らせる循環型社会の構築を目指します。